

報 告 市 政

発行：長島有里事務所
〒249-0007
逗子市新宿1-4-30
046-876-5802（電話兼FAX）
E-mail: yuri_nagashima@yahoo.co.jp

2013年春号



(ながしま ゆり)

長島 有里

34歳

逗子市議会議員 2期目
鎌倉高校卒

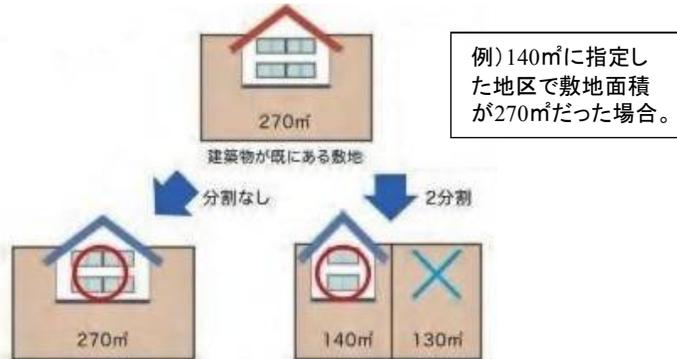
立教大学法学部卒
横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科
博士前期課程修了
会派：市政クラブ

ごみ処理有料化の論点

逗子市はごみ処理有料化を検討しています。逗子市の最終処分場はこのままでは数年で満杯になるといわれています。有料化することで分別を進めて最終処分場の延命化を図らなければ、焼却灰を市外で処分した場合約1億2500万円(年間)かかり、ひいては他の市民サービスに悪影響が出るという現実と直面しています。この前提の中で、一生懸命ごみの分別をしたり生ごみ処理機を使ってごみ減量に取り組んでいる市民と、そうではない市民がどちらも同じく無料で捨てられるのは不公平だといえます。一方で、ごみの有料化はすべての市民の皆さんに負担を求める問題。近隣市では無料のところもあり、有料化は逗子市における公金の値上げともいえます。一定量は無料にするのか、一袋いくりにするのか。この論点を明確にしてから、ごみ有料化の是非を判断すべきと考えます。

土地が分割売却できなくなる！？

逗子市では、まちづくり条例逃れのミニ開発を抑制していくため、新たなまちづくりのルールとして、平成26年度に建築物の敷地面積の最低限度を指定することを目指しています。これは、新たに土地を分割して建てる場合、一部地域では一定規模以下の建物は建てられなくなります。現在の検討案では第一種低層住居専用地域等では140㎡、それ以外の地区では110㎡です。(ただし、すでに存在している敷地についてはこの数値未満であっても建築物の建替えは可能。) 財産権の侵害というご意見もある一方、ミニ開発が起きると周辺部の地価を下げるため指定すべきというご意見もあります。皆さんのご意見をお寄せください。



●対象地域の詳細については逗子まちづくり課のHPをご覧ください。
<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/machi/shikichiMenseki>

北欧のキャリア教育 —中学生にビジネスゲーム—

日本では、教育と就業のマッチングが欠けているため、フィンランドのユリトゥスキュラというキャリア教育の施設を私費視察してきました。

日本でもキザニアが成功を収めています。具体的なお金の稼ぎ方をフィンランドで教えていることが最大の違いといえます。

このユリトゥスキュラという施設では、2010年からヘルシンキ市の全公立の6年生(12歳)を対象にビジネス教育をスタートしました。

早い段階から「自分は将来何の仕事が向いているか?」、「お金はどのように流れ、どういうふうにか社会が動いているのか」ということを教えるために、この施設ではバーチャルな街でビジネスゲームを行います。

子どもたちは事前に10時間程度のワークショップを行い、なりたい職業を申し込みグループに分かれ、事業計画などを立てます。

そして、当日はまず、銀行で口座をつくるところからスタート。

500㎡の広さの施設の中には、銀行、郵便局、スーパーマーケット、美容院、美術館や市長といった職種もあります。



(施設全景。真ん中の建物が市庁舎)

実際の民間企業が出資しており、どの店舗もリアリティがあります。子どもたちは、民間企業であれば利益を出すように経営し、市長は税金を徴収し、美術館は税金で運用されるといった具合。こうしたビジネスゲームを通じて、子どもたちは世の中の流れを学びます。

この施設の取組みを始めたトミ・アラコスキ氏によると、この体験の前と後では、子どもたちの学習意欲は明らかに変わるということでした。

子どもたちからは、「将来起業したい」、「勉強してトップになる」といった感想が寄せられているそうです。

この事業のポイントは、公教育の中ですべての子どもたちを対象に機会を与えるということです。

フィンランドでは、進学率の低い子どもたちは家庭に問題があるケースが多く、親がアルコール中毒や薬物中毒などで、職業に就いていない、そしてその親の親も定職に就いていないなど、負の連鎖が繰り返されていること。

そしてそれを断ち切るために、ロールモデルをもたない子どもたちに、お金の稼ぎ方や職業の選択をする機会を早い段階から与えるためにこの事業をスタートさせたということです。

教育にビジネスを取り込むことは、たんにお金を稼ぐという経済至上主義にさせてしまうということではなく、本来の教育の目的である「その子どもの持っている能力は何か。」といった潜在能力を引き出すための一環であると私は思います。



(スーパー店内。実際の買物もできる。)

スクラップ&ビルドの視点から

今年の予算委員会では、ピースメッセンジャー事業を取り上げました。ピースメッセンジャー事業は中学生20人を隔年で長崎、広島へと連れて行き、非核平和について学ばせるというものです。事業費は約150万円。自己負担はありません。(資料代千円のみ)。

事業目的については深く理解をするものですが、もっと多くの子どもを対象に、中学生が非核平和のドキュメンタリー映画を見たり、今なら原発に関するパネル展をしてもよいと思います。

昨年は応募が多数で抽選になったということですが、公平性からも一定の自己負担を求めるよう事業の見直しを要望いたしました。

なお、昨年の決算委員会で指摘したグリーンカーテン設置事業(約100万円)については、新年度廃止されました。

財政状況が豊かな時代ではあれもこれもということができましたが、今はあれかこれかの選択の時代です。市の事業については、優先順位を見極めた上で無駄を省くよう今後しっかりとチェックしていきたいと思います。

県内初！逗子市議会タブレット端末導入へ

今年から、逗子市議会では膨大な資料のムダを省くためタブレット端末を導入することが決定しました。

この改革には、議員が一丸となって取り組みました。

民間企業では当たり前のことですが、官公庁ではまだ全国的にも珍しい取組みとのこと。

お役所はとにかく資料が多く、予算や決算の時には資料が2千枚を超えることもあります。クラウドシステムを活用し、議案や資料、通知はサーバー上にアップすることで、ペーパーレス化を目指して今後も取り組みます。



(タブレット端末)

全国初！逗子の津波対策

一見すると普通の津波避難経路シートですが、これは、昼間の太陽光を蓄え夜間に発光する「蓄光表示材」を使用し、停電により街中が真っ暗になってしまっても見える仕組みになっています。

逗子市の津波避難ビルは震災後4ヶ所から38ヶ所へ大幅に増加しています。4月号の広報ずしでは津波避難ビルなどの詳しい情報が掲載された津波ハザードマップが配布されます。是非今一度ご確認ください。



(津波避難経路案内シート)

●みなさまから寄せられたご意見

Q.保育園に入れませんか！

A.逗子市の保育園は公立、私立ともに定員が満員です。

一方で幼稚園は定員割れの状況。今後、国の「子ども・子育て新システム」に合わせて、認定子ども園の設置を進めるなど改善策について引き続き提言してまいります。

Q.図書館の予約システムが使いづらい・・・

A.現状、市のHPから数冊予約される際は、いったんログアウトしなくても続けて予約することができます。しかし、大変わかりづらいため、担当に指摘し、平成26年度に見直すという回答がありました。

Q.今年の花火大会はいつですか？

A.逗子海岸花火大会 6月1日(土)19時45分～20時30分予定。

* 荒天時 翌6月2日(日)



ご意見・ご要望お待ちしております！

TEL/FAX: 046-876-5802

E-mail: yuri_nagashima@yahoo.co.jp

必ず
拝読します！

長島有里ブログ
<http://nagashimayuri.seesaa.net/>



【編集後記】
この春、大学院を卒業いたしました。横浜市立大学大学院都市社会文化研究科で、おもに景観まちづくりについて研究いたしました。
指導教員は横浜のみなとみらいなどを手がけている鈴木伸治先生で、修士論文のタイトルは『分権時代における景観条例の実効性と課題について』です。
研究テーマは、地方分権改革が進む中、自治体が独自の条例というツールを使い、どのように景観まちづくりの実効性を上げていけるか、といったことをまとめました。
この間、逗子市屋外広告物条例制定や、景観条例の事前協議のあり方についてなど提言してきましたが、今後とも大学院で研究したことを仕事に活かしてまいります。
修士論文は、私のブログに掲載しましたので、ご興味のある方は「一読いただければ幸いです。」